

議会だより

行政報告・補正予算	
同意案件・意見書……………	2～3
町政のそこが聞きたい……………	4
一般質問……………	5～6
常任委員会の動き……………	7



秋天一碧（しゅうてんいっぺき）の下、子ども達も楽しそう!! 「いっぱいとれたヨ～」



じゃがいも祭り in かわきた2021

令和3年10月9日(土)
於：川北マルワ農園

秋晴れの中、土に塗れて無農薬栽培のじゃが芋（花標津・さやあかね）を収穫。
『実りの秋』本番を堪能しました。【来場者：108名】

発行／北海道標津町議会

編集／広報特別委員会

基幹産業の状況について



山口将悟町長の行政報告

基幹産業の状況

酪農業

今年、4月から6月の天候が日照・気温・降水量とも平年並に経過し、牧草の生育は総じて平年並みとなった。

この収穫については、6月下旬から7月中旬に入り好天が続き円滑な収穫作業が行われたため昨年に比べ品質の高い自給粗飼料が確保されており、2番牧草についてはその生育に遅れが生じたが、その後の天候の回復により収穫作業が平年より若干早く始まった。

生乳生産については、4月から8月末現在で対前年比104%、累計で4万6978トン（前年比較+1978トン）となっており堅調に推移していること

らである。

今後令和3年産自給粗飼料の給与が本格的に開始されるが、昨年に比べ品質の高い自給飼料が収穫されたため、生乳生産については今後の伸びに期待がもてる状況にあると考えている。

漁業

秋鮭漁については、9月1日から5日まで網入の自主規制が行われたため9月6日から9日が始水揚げとなった。

9月15日までの水揚げ量（小定置含む）は、291トン（昨年203トン）と昨年より40%以上の増である。水揚げが始まってから1週間ほどであり漁模様について言及でき

る時期ではないが、今年の根室北部海域は極度の不漁であった前年をさらに5%近く下回る、極めて厳しい来遊予測が発表されている。平均単価については昨年同時期より2割以上高い1kg当たり887円（昨年725円）である。

9月14日の標津沖の表層水温は16.8度であり、昨年同日の水温（昨年は18.3度）より1.5度低い状況である。

ホタテ漁については、8月27日に夏の操業を終え、漁獲量は6617トン（昨年は7038トン）であった。

単価については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け下落していると考えられるものの春先まで100円台後半と昨年よりも高値で推移し、その後も

単価は上昇し夏操業終了時の平均単価は、昨年より2割以上高い215円である。

単価向上のため水揚額は前年同期より24%増加し14億円を超えており、すでに年間計画を達成している。

コロナウイルス関係

ワクチン接種の状況については、65歳以上の高齢者から始まり、9月9日をもって対象者の一巡を終えたところである。

65歳以上の接種率は92.7%全体で86.4%であった。

まだ接種を受けていない方については、希望者を対象に1回目の接種を実施しており、2回目は10月6日、7日の2日間で実施する予定となっている。

今後についても、ワクチン供給量の状況を

見ながら、接種を受けられていない方を対象に再度案内する予定である。

新型コロナウイルス感染症に係る標津認定こども園の集団感染の発生に関しては、9月3日に園児2名の感染者が確認された後、5日に職員1名、9日に園児2名の合わせて5名の感染者が確認された。

なお、中標津保健所の調査で接触者とされなかったため、検査を受けていなかった園児、職員についても、保護者や職員の不安を取り除くために町独自で検査を実施し、全員の陰性が確認されていることから、9月13日から陰性が確認された園児を対象として、一部登園の自粛や保育時間を短縮して登園を再開している。

同意案件

標津町監査委員

佐竹 和己 氏

標津町南1条西4丁目2番3号
 〈任期〉
 令和3年9月26日
 ～令和7年9月25日

標津町固定資産評価員

星 京子 氏

標津町南5条西1丁目3番3-103号
 〈任期〉
 選任の日
 ～令和7年7月14日

標津町教育委員会委員

畠山 賢潤 氏

標津町南4条西1丁目1番11号
 〈任期〉
 令和3年10月11日
 ～令和7年10月10日

意見書

○コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書

提出者
 南 憲治 議員

○国土強靱化に資する道路の整備等に関する意見書

提出者
 南 憲治 議員

一般会計の補正予算

主なもの

(単位:千円)

項目	金額	内容
デジタル化・行政事務等電子化事業	10,312	文書管理・電子決裁システム導入経費、文書管理コンサルティング説明会開催経費
標津町起業等支援事業	4,390	起業等支援事業への追加
住民健診システム導入事業	6,963	住民のがん検診等の情報とマイナンバーとの連携に向けた住民健診システムの導入費用
アイヌ施策推進事業(サーモン科学館)	85,492	サーモン科学館2階展示室を活用し、「鮭の聖地」プロモーション展示室としてリニューアルするための改修工事
サーモンパーク施設整備事業	3,894	サーモンパーク屋外トイレ屋根外壁改修



副委員長
 山崎英司議員



委員長
 吉田 智議員

令和2年度の決算を、議長と町議会選出の監査委員を除く8名で構成される決算審査特別委員会に付託しました。

期限 令和3年11月30日

決算審査特別委員会

一般質問

一般質問とは、定例会において、各議員が住民を代表して、行政全般にわたり町執行機関の政策・方針を質す事です。
単に疑問を晴らし、事実関係を明らかにするだけでなく、現行の政策を見直し、新規政策を提言する議員の重要な活動です。

町政のそこが聞きたい

令和3年第3回定例会(9月16日)で2議員が一般質問をしました。
両議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。

両議員は、7月29日開会の令和3年第5回標津町議会臨時会に於いて、山口町長が表明した町政執行方針の重点施策【4つの政策(やくそく)】の具体的な政策に関して質しました。〔両議員は、町長の当選を祝すと共に(やくそく)の実行を促しました。〕

参考1

「町政執行方針」の重点施策と一般質問の関連

1. 力強い産業づくり

【農業】…吉田議員の質問①

【観光】…吉田議員の質問②

2. 町民が安心して暮らせるまちづくり

【高齢者・障がい者支援】…小川議員の質問

【一箇所の水源に頼らない新たな水源の調査と確保】…吉田議員の質問③

【環境】…吉田議員の質問④

3. 町民の皆様と手を携えたまちづくり

4. 行政を推進する組織と職員力の強化

～町民の皆様の笑顔が輝く町づくり～

『協働・協心・協和』



★「町政執行方針」の重点施策の具体的施策に関して質す！

小川 悠治 議員

5ページ

- 高齢者が標津町に住み続けることが出来る



デマンド無料バス(市街循環線)



移動手段〔足〕の確保を！



質問中の小川議員

吉田 智 議員

6ページ

- ①【持続可能な農業】に帰結する

『国営かんがい排水事業(一般型)』の現況は？

- ②【持続可能な観光】の推進組織『南知床標津町観光協会』の運営基盤強化の為に…

- ③「新たな水道水源の調査と確保」

『第2の水瓶』の候補地は？



ウラップ川水源

- ④「プラスチック資源循環促進法」明年4月施行

『ごみ分別方法』を見直し町民負担の軽減化を！



質問中の吉田議員

★「町政執行方針」の重点施策の具体的施策に関して質す！①



高齢者が標津町に住み続けることが出来る
移動手段(足)の確保を！



問 町長は、第5回臨時会において、町政執行方針を表明し、重点施策として4項目を掲げた。「4頁参考1参照」

いずれも重要な課題であり、2と4は特に関連がある。その中から、移動手段を持たない高齢者への移動支援事業・新たな地域交通体系に関して質す。



小川 悠治 議員

令和2年9月定例会において、『高齢者の運転免許返納対策を含む高齢者の交通対策』について質問した。当時の副町長であった町長は、「地域公共交通連絡会議」と「標津町地域福祉計画」にて検討すると答弁し、連絡会議は即10月1日に立ち上げられ、第2期福祉計画は本年3月に示された。その中の重点事業で「高齢者や障がい者が快適な暮らしが出来る移動手段：」とあるが、現状の問題として、高齢者が標津町に住み続けることが出来る移動手段(足)の確保を、最優先にして取り組んで頂きたい。

参考2

【政策提言】～高齢者等の足(移動手段)の確保について～
標津町議会文教福祉建設常任委員会

- ①既存の民間事業者と連携した利便性向上へ向けた乗合タクシー事業の創設等、それに係る町からの助成の検討。〔主に標津市街を対象〕
 - ②『公共交通空白地有償運送』に基づき、ボランティアドライバーを組織・制度化し、利活用を検討。〔主に郡部を対象〕
- 以上2点を「標津町地域公共交通連絡会議」宛に提言致します。

★【高齢者の移動及び買い物支援の事例集】を添付し、提出

令和2年9月定例会の質問を機に、前期の文教福祉建設常任委員会(吉田智委員長)は、高齢者への新たな移動支援策について取り上げ、4回に亘り協議を重ね、本年3月に提言書(参考2参照)を標津町地域公共交通連絡会議に提出した。

今後とも増え続ける高齢者の移動手段確保が、高齢者が標津町に住み続けることが出来るか否かの喫緊の課題。この課題に対する取り組みの進捗状況を伺う。

答 既存支援事業の

- ①デマンド(予約制)無料バス・ハイヤー
- ②高齢者無料バス乗車券
- ③高齢者等通院ハイ

ヤー助成券

3事業は、利用対象者が増加しているにも拘わらず、利用者が減少している。広報誌等で周知を行なっているが、認知度が低い。又、第2期福祉計画策定の際のアンケートによると、最も要望が多かったのが、日常的な外出支援であり、無料バス等の運行時間等に課題がある。現行のルート・運行時間を見直し、買物等に利用できる制度になる様、来春実施を視野に入れ検討する。

公共交通空白地帯においては、提言書の通り、町民の力を活用した体制づくりが重要。

町・交通事業者・道路管理者・福祉関係者で構成される協議会設立に向けた事前説明の段階にある。来年度中には設立予定である。

★「町政執行方針」の重点施策の具体的施策に関して質す！Ⅱ

- ①【持続可能な農業】に帰結する『国営かんがい排水事業（一般型）』の現況は？
- ②【持続可能な観光】の推進組織『南知床標津町観光協会』の運営基盤強化の為に…
- ③「新たな水道水源の調査と確保」『第2の水瓶』の候補地は？
- ④「プラスチック資源循環促進法」明年4月施行『ごみ分別方法』を見直し町民負担の軽減化を！



吉田 智 議員

問 山口町長の町政執行方針の重点施策の具体的施策4項目に関して、町長の所見を質す。

[4頁 参考1 参照]

① 国営かんがい排水事業の推進を明言されているが、平成27年第3回定例会において、金澤町長に対し、酪農を楽農にする為に国営かんがい排水事業の導入を：と質したが、その後の【持続可能な農業】に帰結する本事業の取り組みの現況を質す。

② 本年7月21日、観光関連3団体が統合・一本化され、「南知床標津観光協会」が発足。【持続可能な観光】の推進組織となり、日本遺産に登録された「鮭の聖地の物語」根室海峡一万年の道程を活用した体験観光を軸に事業展開を推進する事となった。

しかしながら、協会の運営基盤は、脆弱である。基盤強化の為に、観光協会の事務所を国道244号線沿いに移転・設置（空家・空地を活用）

●観光協会の法人化、若しくは民間非営利団体（DMO・一般社団法人・NPO等）

●前述2項目が実現した際に、事務所の設備投資・家賃等を賄い、従前通りの助成金給付の3点を提言する。



日本遺産「鮭の聖地の物語～根室海峡一万年の道程～」の起点：「ポー川」【原始河川ポー川カヌー体験の様様】

③ 町内の簡易水道の99%を賄うウラップ川水源の他に第2の水瓶となる水道水源の調査と確保を明言されているが、その候補地を質す。

④ 「プラスチック資源循環促進法」が明年4月に施行される見込み。ごみの分別排出方法の更なる煩雑化が懸念される。この際、当町のごみ分別方法の見直しを行ない、町民負担の軽減化を図る事を提言する。所見を質す。

答 4項目に関して、一括で答弁する。

① 現在、釧路開発建設部と事業採択に向けて町・JA・農業者との間で協議を重ねている。9月中に、JAが整備構想に対する意志確認を行ない、地元合意を図る。意志統一されると、地域整備方向調査・地区調査・実施設計

を経て、最短で令和9年度に事業調査の運び。

今後共、JA・農業者と十分に協議し、関係者の納得の基、事業採択に取り組んで行く。

② 観光協会の活動拠点を国道沿いに移す事は有益であり、サステイナブルツーリズム（持続可能な観光）実現には、組織の法人化は必要不可欠。「稼げる観光」を推進する為に、協会と協議しながら、可能な限り支援をする。

③ 土砂災害等を想定すると対策は急務。茶志骨浄水場、古多糠配水池付近の調査を想定している。

④ 町民の皆様の理解の得られる分別方法と負担に関して検討して行く。

有効な方法を総括的に検討し、然るべく時期に具体案を提案する。

常任委員会の動き

町内行政視察研修等

文教福祉建設常任委員会

総務経済常任委員会

総務

経済

まちの駅
「サーモンプラザ」の
建設工事進捗状況



まちの駅「サーモンプラザ」の完成予想図

ウッドショックの影響により、2週間の遅れが出たが、11月末、建物竣工予定。外構及び公衆トイレ改修工事に関して、11月下旬完成予定であるとの報告を、水口商工観光課長より受けた。

第7回(8月27日金)
総務経済常任委員会

秋サケ来遊予測と
不漁対策方針

大塚水産課長より、最近10年間の全道各地区の秋サケ来遊予測値と実績値が提示された。根室海区北部地区は、過去10年間全ての年で予測値より実績値が下回っている。本年度の当地区の来遊予測値は、前年比95.5%であり、極めて厳しい予測となっている。

町は不漁対策方針として
○親魚の確保に関する支援を優先する
○資源増産に向け管内の連携を図る
○漁家経営改善への取組等、前向きな取組を支援する
等を挙げている。

文教

福祉

建設

第6回(7月16日金)
文教福祉建設常任委員会

雪氷熱利用備蓄
実験施設を視察

雪氷熱を利用し
低コストでの食品保存を
実験調査中!



住民生活課【和田危機管理室長】より説明を受ける委員会メンバー

平成31年から実験調査を開始していた「雪氷熱利用備蓄実験施設」の7月時点での現状について住民生活課から説明を受けた。
今年、1月に水の凍結が完了し鮭飯寿司2樽を貯蔵して様子を



「雪氷熱利用備蓄実験施設」の外観(中古の冷凍保冷用コンテナを活用)

見ている、とのこと。
十勝などで農産物の保存に関しては研究が進んでいるが、水産物の保存に関して、ランニングコストが極めて低い保存方法であることから、この実験成果が期待されている。

